

小学生の頃から『ごっこも科学』と『無線と実験』を愛読していたという、生粋のラジオ少年だった永田さん。「唯一の娯楽でもあった祖父の遺品のRCA (Radio Corporation of America) のラジオを壊しちゃったんです。どうしたものかと困っていた時、雑誌の懸賞でラジオ組立セットが当選！ それなら新しいのを自分で作ってみようかなと、組立方法は雑誌の記事から学び、1丁4 (電池管) などのパーツは、秋葉原の軍用携帯型機器扱いの店で買いました。組立てたラジオが電波を受信した瞬間、今度は電波を出してみたいと思っただけです」。

「無線は我が人生」どこにいても続けます。仕事で香港に来てからも無線は続けた。「電波の入りがすごく良かった約30年前には、香港からでもケネディ国際空港での無線交信が聴けました。行ったこともない国の電波を受信し、リアルタイムで何が起きているのか分かるってすごいと思いませんか？ 中国が最初に人工衛星を飛ばした時に、その人工衛星が発した周波数を偶然キャッチしたんですが、それが宇宙から伝わって来たものだとかわかった時はさすがに感動しましたね」。

無線を使って電波を飛ばすには免許が必要。免許は無線に関する知識がない人で約1年に取得することも。機械的な知識や無線用語が難しそうな印象を与えているが、「実は難しいことなんてないんですよ！ 今は出来合いの無線も売ってあるし、免許を取るのに実技テストもなくなくなった。用語なんてやっていると自然に覚えちゃいますよ。本を見て勉強するのもいいけど、無線仲間には知識が豊富な人が多いので、酒を呑みながら勉強するのもいい手だと思いますよ(笑)」。

無線を通して知り合った仲間とはとても大切ですよ

香港で無線を楽しむには思

無線機の前でじっとしていると 思っているでしょ？ 実は結構アウトドアなんです！

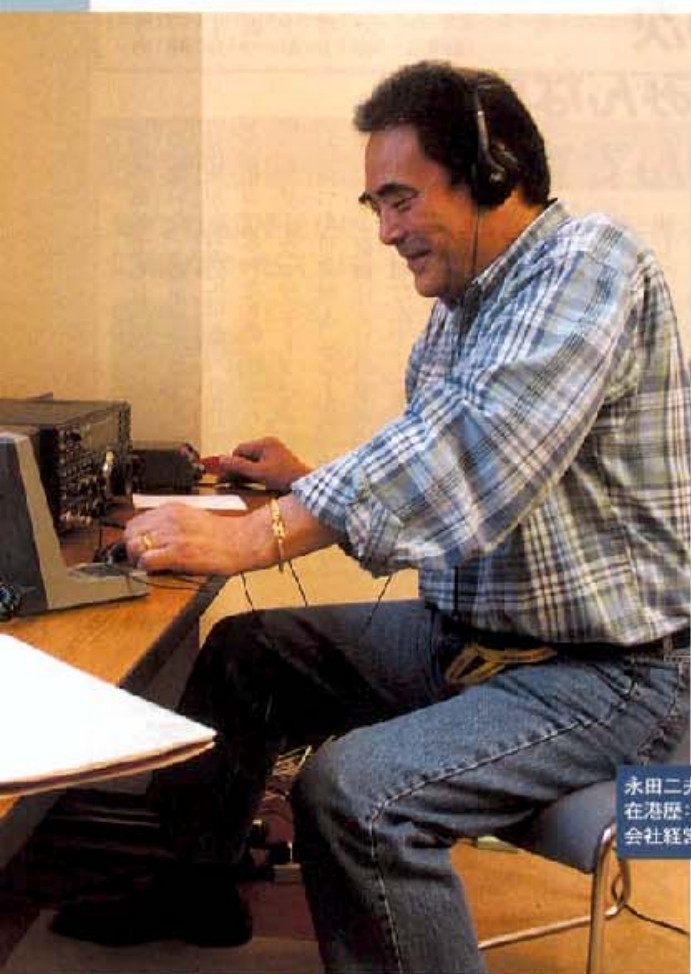


日本人倶楽部アマチュア無線同好会
(問合せ先: vr2jc@qsl.net,
nagats2003@netvigator.com)

いがけない壁が、「アマチュア無線」というのは、自分でアンテナを立て、電波の送受信をすることで、アンテナも高い所や、さえぎるものがない所でしかうまくいかない。香港ならビルの屋上なんかはアンテナを立てれば良いと思っただけ？ だめなんです！ ビルの管理事務所が結構うるさいんです(笑)。ですから、休日は朝から船を出して無線をしながら釣りを楽しむ、山頂にアンテナを立てるついでにハイキングや、バーベキューをするとか、郊外に出て無線活動をしているんです」。

ありとあらゆる電波が飛び交う現代社会、色んな音が聞こえ過ぎてしまうのでは？ タクシー用、航空機用など数多くの専用周波数があります。無線のプロは国家機密レベルの周波数をキャッチできる技を持っていたりします。それに会話用周波数なんてのもあります。確かに昔に比べて無線が入りにくくなっているのは事実です。香港では街を彩るネオンが電波を邪魔していたりするんですよ！

便利なコミュニケーションが溢れている現在でも無線ではないと何か物足りない。いつ、誰が、どこにでてるのか分からない、そこが無線の魅力。そして、何もなかったころから、コミュニケーションを生み出す無線。「無線は一期一会。無線を通じて知り合った友人との付き合いは大切にしていきたいと思っています。」



永田二夫さん
在港歴: 31年
会社経営



写真上/ノイズのない澄み切った音声の周波数を探る永田さん。中/送受信できる周波数によって機種が異なる無線機。安いのだと5~6万円から下/永田さんが無線機器の購入や修理時に通うCQ通信専門店(GF, 254 Apla St, Sham Shui Po: 2706-7181)。右/メンバーや永田さんが無線で知り合った友人と

